

NANIWA59号

やはり、暴露された。小森氏の指示で支店は対応させられていた

そしたら、指示を守らなかった支店には、罰をくださすのか。それより、こんな馬鹿らしい指示を聞かない支店の独自判断の方が正しく、人間らしいぞ。

個人であり、2府4県の担当であり、責任者である小森氏。本店指示でなく、独自で決めるのに、「本店で対応しています」と言う。いったいあなたはなにがしたいの？

4月13日の金融共闘一斉行動

恒例の朝ピラからの宣伝。街宣カーからは、「ご支援ありがとうございました。裁判に完全勝利しました。今度は控訴を取り下げさせる運動です」というと、ピラの受け取りもよく、耳を傾けてくれます。それだけ、私たちの宣伝が浸透してきたということです。

・近畿財務局要請では「個社の労使問題で片付けるのでなく、不払いなどすべてにこの企業の体質がこういう今をつくりあげてしまっている」と主張しました。

・OBP 前宣伝行動では、会社は要請団をまた、エントランスで対応。「会議室は用意していません」「労組が会議室借りたいといったら貸さないのか？」「同じ対応になるでしょう」とまた、こんな対応でした。「その他の支店では要請もすんなりいったが、なぜこのような対応をするのだ？」「私の指示が悪かった」「どう言う意味で指示が悪かったのか？各支店が判断し要請を受けたことを小森氏の指示を無視したと言う意味か？」「私の判断で、私の指示でやっていることだ」「判決についても読んだのか？」「分厚いのを読みました。あれは本店で対応するので。訴訟費用は確かに会社と書いてあった」「あなたでは話にならない。支店長をだせ。あなたの趣味でこんなことされては紛争が拡大するだけだ。混乱させているのは小森氏自身であるとしか言いようがない。ところで前回の要請書についてのコメントはないのか？」「本店へ伝えているがコメントはない」「家庭訪問で先生がきて小森氏は玄関で対応するのか？」「今、あなたたちと争っているから入れない、いや、団交で行なうのが筋だと考えている」。久保田事務局長も「いつまでこんな対応するのだ」、要請団からも「ここでなくても、外に出て会議室を貸せない説明をせよ」と言い、外に出てきていただきました。外で待っている仲間たちは総勢 80 名。要請書を読み上げると、働く仲間からは、「いいかげんにしろ」「たいてい応接ぐらいは用意しているぞ」「これが本当の姿の東京海上だ」など怒りの声が発せられました。

その後、各支部支援を行なってから、執行委員会を開きました。関西はもっと NANIWA 的に宣伝を、という意味で、関西日動外勤をかたせる会がホームページを立ち上げました。また、見に来てください。アドは後日。

ひとりはおみんなのためにみんなはひとりのために

全損保日動外勤支部大阪分会